

第3章 子どもの体験活動と公民館事業に見る知の循環型社会構築の現状と課題

本章では、リサーチ「子どもの体験活動と地域の教育力強化の在り方に関する調査研究」のアンケート結果に関する考察を行った。

「第1節 子どもの体験活動の現状と課題」

「第2節 公民館活動の現状と課題」

「第3節 地域の教育力に向けた公民館活動の現状と課題」

以上3節から、子どもの体験活動と公民館事業に見る知の循環型社会構築の現状と課題について考察を行った。なお、本章で取り扱っている図中の質問の番号については、アンケート調査で使用した質問番号と同一である。

また、詳しいアンケート結果については、各教育委員会へ配布する「CD-ROM 版報告書」及び秋田県生涯学習センターHP (<http://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/>) に掲載している。

第1節 子どもの体験活動の現状と課題

平成11年度当センターでは、「子どもの生きる力を育む地域活動に関する調査研究～地域行事・地域活動への児童生徒・保護者の関わり方に関する実態調査～」を実施した。当時子どもを取り巻く状況を見た時、平成14年度からの学校週5日制完全実施に向け、教育委員会や公民館では、子どもたちを対象とした事業に取り組もうとしていた。学校週5日制導入の目的は、子どもたちが休日となる土・日曜日の「余暇時間」を確保し、家族の触れ合いや異年齢間の交流、自然体験活動、地域活動、奉仕活動等を通じて、自己の課題を発見し「生きる力」すなわち、自分で考えることのできる資質や能力、それを支える正義感や倫理観等の豊かな人間性を育成していくことであった。

子どもを対象とした事業の実施主体となっていた「公民館」の取組が見直されている昨今、今年度当センターでは子どもや保護者を対象に「子どもの体験活動と地域の教育力強化の在り方に関する調査研究」を実施し、平成11年度のデータと比較しながら、子どもの体験活動の現状と課題について考察した。

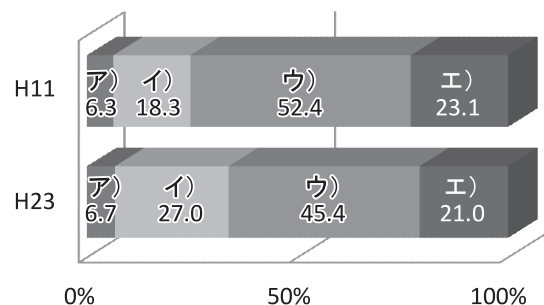
1 子どもの体験活動の現状と課題

子どもたちの自然体験活動に関する質問では、平成11年度の前回調査に比べると、小学生・中学生ともに「時々している」が増え、「することがない」が減っている。特に中学生は、「することがない」が49.7%から42.0%へと7.7ポイント減少している(図 3-1-1,2)。このことは、自然体験活動が社会全体で重視されてきた結果だと考えられる。

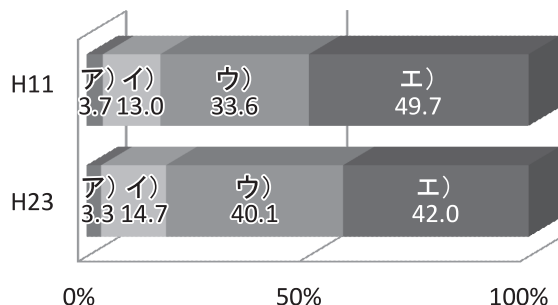
自然体験活動に関しては、平成22年度に国立青少年教育振興機構が行ったアンケートでも、「昆虫採取や魚とりなどの自然体験が多い小学生・中学生・高校生ほど『困ったときでも前向きに取り組む』といった自立的な行動習慣を身に付けている傾向がある」と、報告されている。今回の調査結果を見た時、秋田県の小学生・中学生ともに望ましい傾向にあると言える。

児童・生徒 (1) あなたは、この1年間に、地域の山、川、海などの自然の中で、虫や草花の観察や魚とりなどの遊びをしたことがありますか。次の中から1つ選んでください。

小学生(図3-1-1)



中学生(図3-1-2)

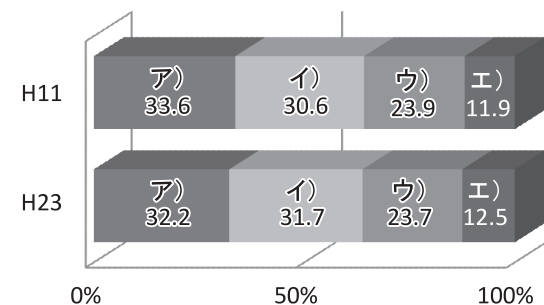


ア) いつもしている イ) 時々している ウ) たまにすることがある エ) することがない

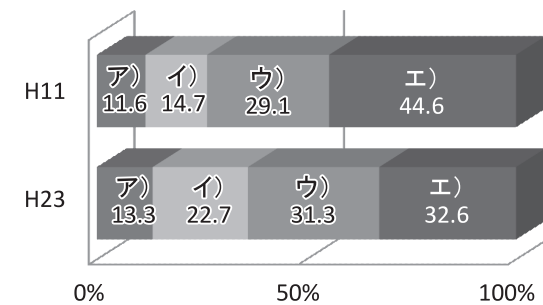
次に、地域で行われた行事やクリーンアップなどの地域活動の参加状況に関する質問に対して小学生は、前回調査に比べて大きな変化はないが(図 3-1-3)、中学生は「参加したことがない」が、44.6%から32.6%へと12ポイントも減少している(図 3-1-4)。

児童・生徒 (2) あなたは、この1年、地域で行われた行事やクリーンアップなどの地域活動に参加していますか。次の中から1つ選んでください。

小学生(図3-1-3)



中学生(図3-1-4)

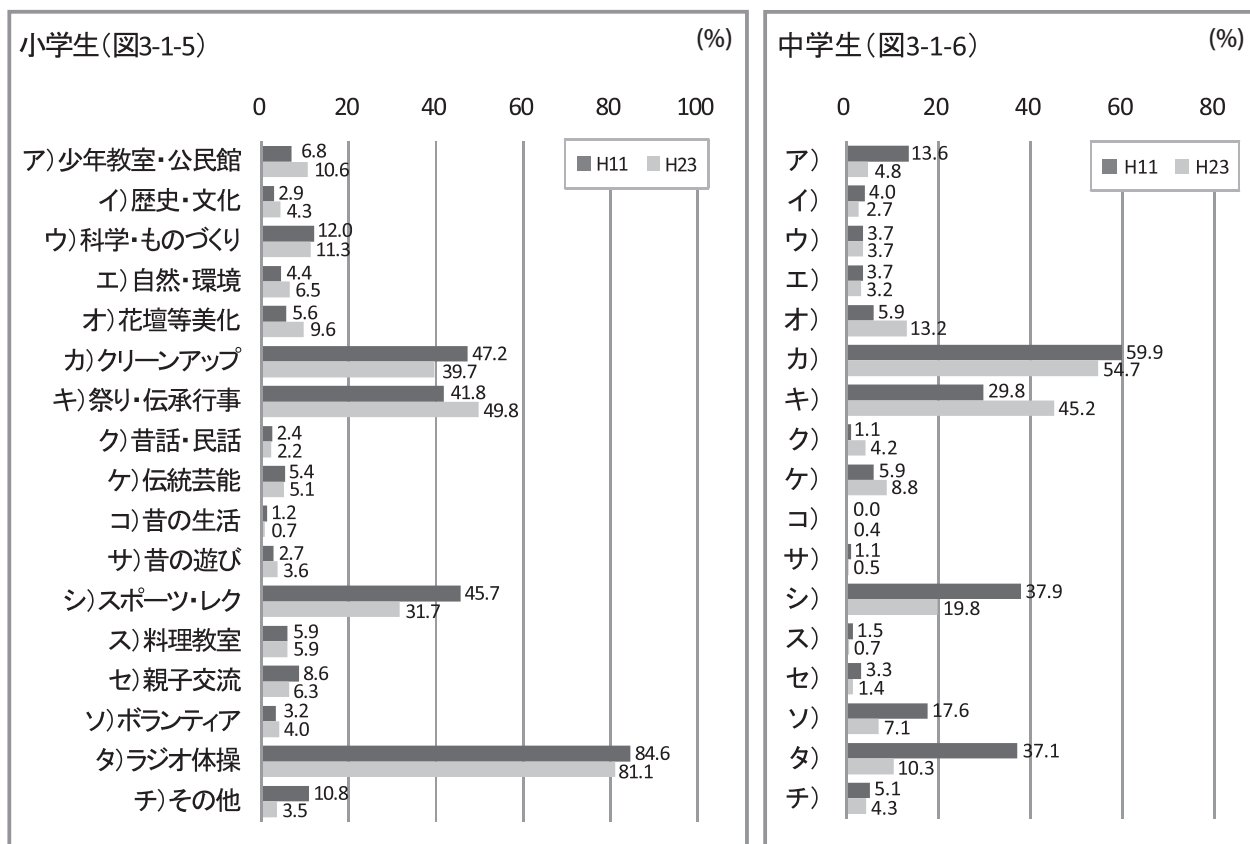


ア) いつも参加している イ) 時々参加している ウ) たまに参加している エ) 参加したことがない

また地域行事・活動に参加したことがある人に対し、どのような内容の活動に参加したのか、という質問で小学生・中学生とも「クリーンアップ活動」「祭りや古くから伝わる行事」「スポーツレクリエーション(キャンプ、盆踊りを含む)」「朝のラジオ体操」の上位4項目は、両年度とも同じであるが、小学生では「スポーツレクリエーション(キャンプ、盆踊りを含む)」が減り、「祭りや古くから伝わる行事」が増えている(図 3-1-5)。中学生は「スポーツレクリエーション(キャンプ、盆踊りを含む)」「朝のラジオ体操」が大きく減少し、「祭りや古くから伝わる行事」「花壇づくりなどの美化活動」が増えている(図 3-1-6)。

児童・生徒 (3) 前問 (2) で ア) イ) ウ) と答えた人 (地域行事・活動に参加したことがある人) だけ答えてください。

① あなたが参加したのはどのような内容の活動ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。



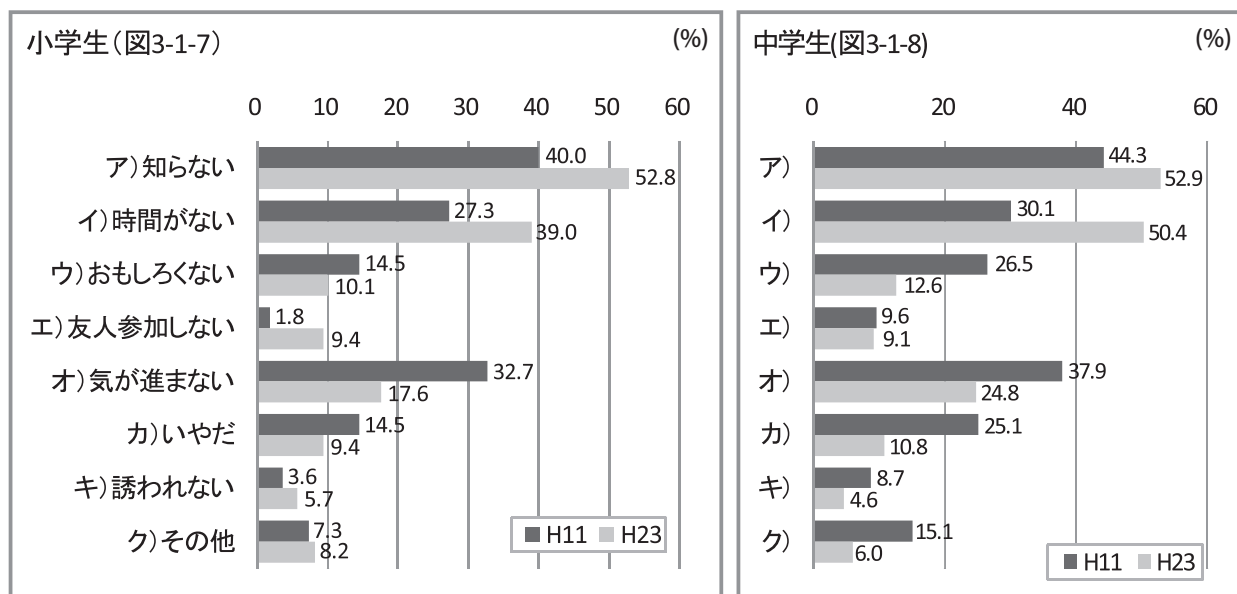
- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| ア) 少年教室・少年公民館活動 | イ) ふるさとの歴史や文化を調べる見学や活動 |
| ウ) 科学教室・ものづくり教室 | エ) ふるさとの自然や環境について学ぶ会 |
| オ) 花壇づくりなどの美化活動 | カ) クリーンアップ活動 |
| ク) 昔話・民話などを聞く会 | キ) 祭りや古くから伝わる行事 |
| ケ) 昔の遊びを体験する会 | コ) 昔の生活を知る会 |
| シ) スポーツレクリエーション (キャンプ、盆踊りを含む) | |
| ス) 手作り料理教室 | セ) 親子座談会・親と子のつどい |
| タ) 朝のラジオ体操 | ソ) 福祉施設などでのボランティア活動 |
| チ) その他 | |

地域の行事や活動に参加してよかったと思うことは何か、という質問では、小学生・中学生ともに「地域のいろいろなことを知った」「ふるさとのよさがわかった」の項目が増加している。このことは、地域の行事や活動に参加することによって住んでいる地域を見つめ直す良い機会となり、郷土愛を育むことが期待される。

他方、地域で行われた行事やクリーンアップなどの地域活動に参加したことのない小学生12.5%、中学生32.6%に対してなぜ地域行事・活動に参加しなかったか理由を質問したところ、小学生・中学生ともに「知らなかったから」「時間が合わない (時間がない)」が増加している (図 3-1-7、8)。「知らなかったから」については、行事の広報の在り方として家庭・学校・行政の連携の緊密化が求められる。

幸いなことに「気がすすまない」「いやだ」が減少しており、「時間がない」という問題を解決できれば、地域行事・活動に参加する児童・生徒も増加するだろう。

児童・生徒 (4) 前問 (2) で、エ) を選んだ人 (地域行事・活動に参加したことがない人) だけ答えてください。あなたが地域行事・活動に参加しなかったのはなぜですか。その理由をすべて選んでください。



ア) 知らなかったから イ) 時間が合わない(時間がない)から ウ) おもしろくないから
 エ) 友だちが参加しないから オ) 気が進まないから カ) 参加するのがいやだから
 キ) 誰からも誘われないから ク) その他

2 子どもの体験活動に対する保護者の意識の現状と課題

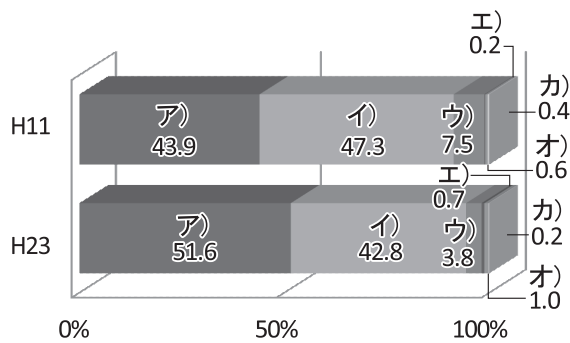
保護者が子どもの体験活動に対してどのような意識をもっているか今回の調査結果から見ていくこととする。

子どもが地域行事・活動に参加することについてどう思うかという質問に対して(図 3-1-9,10)「大変よいことだと思う」が、小学生の保護者では、43.9%から51.6%で7.7ポイント、同様に中学生の保護者も39.7%から44.0%で4.3ポイント増加している。

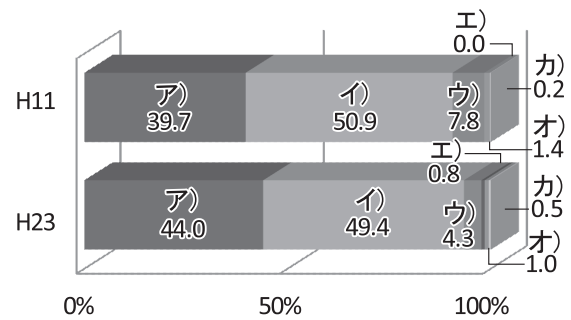
次に、保護者が、子どもの地域の行事や活動にどのように関わっているのかを見ていこう。(図 3-1-11,12)によれば、保護者自身は、地域の行事や活動に参加したことがありますか、という質問に対して「いつも参加している」が小学生の保護者では、前回調査より3.4ポイント減少し、同様に中学生の保護者も4.9ポイント減少している。さらに「参加したことがない」も小学生の保護者では3.1ポイント増加し、中学生の保護者では3.5ポイント増加している。地域の行事や活動に参加したことがない保護者に理由を聞くと(図 3-1-13,14)「仕事が忙しい」が飛び抜けていた。前回調査に比べると小学生の保護者では、35.0%から54.2%で19.2ポイント増加している。さらに中学生の保護者では43.2%から80.1%と36.9ポイントも増加している。このことは、保護者の多忙化が一層進んでいることを示している。

保護者 (2) あなたは、あなたのお子さんが地域行事・活動に参加することについてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

保護者・小(図3-1-9)



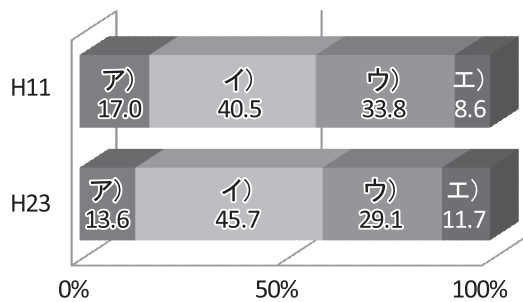
保護者・中(図3-1-10)



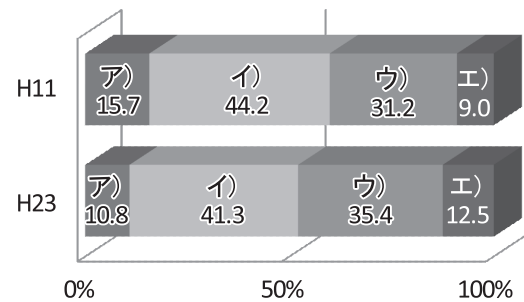
ア) 大変よいことだと思う イ) よいことだと思う ウ) どちらとも言えない エ) 参加を勧めたくない
オ) わからない カ) その他

保護者 (5) ②あなたはお子さんと一緒に地域活動や行事に参加していますか。次の中から1つだけ選んでください。

保護者・小(図3-1-11)

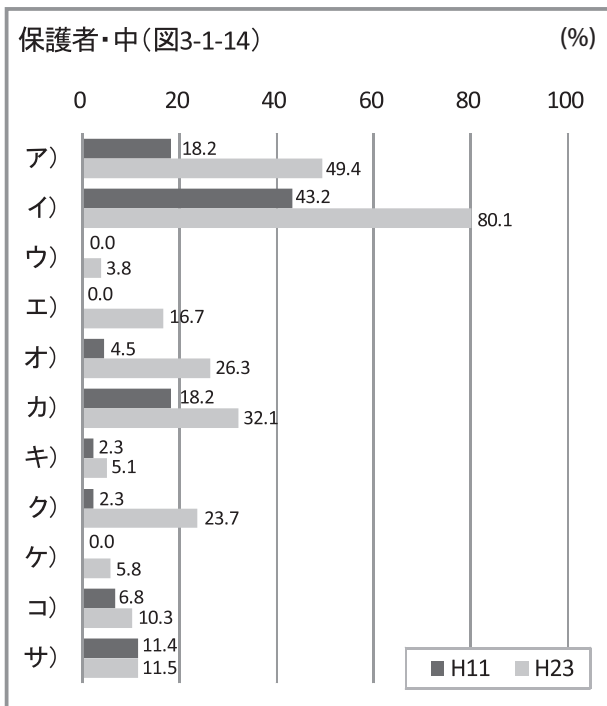
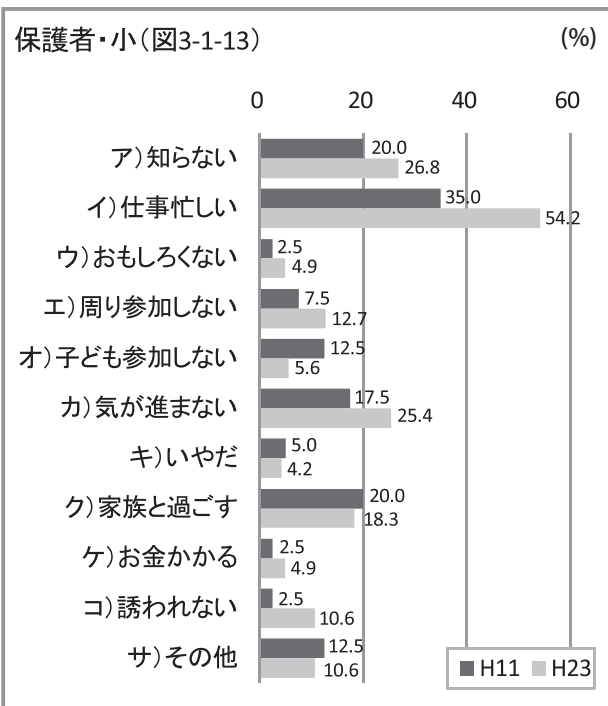


保護者・中(図3-1-12)



ア) いつも参加している イ) 時々参加している ウ) たまに参加している エ) 参加したことがない

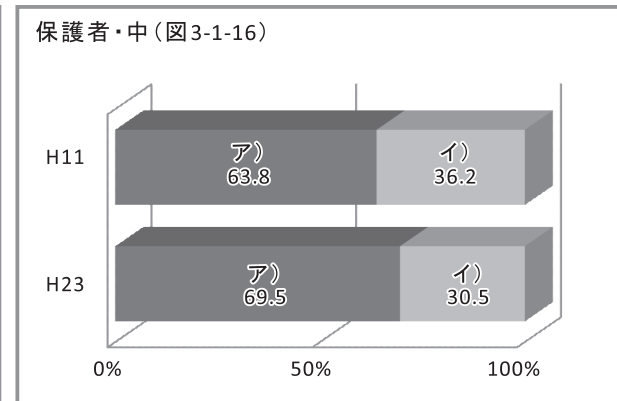
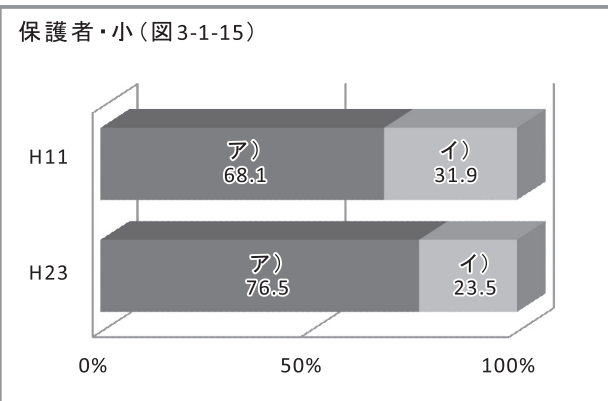
保護者 (6) 前問(4)で、エ)と答えた方(地域行事・活動に参加したことがない方)だけお答えください。
あなたが地域行事・活動に参加されなかった理由は何ですか。その理由をすべて選んでください。



ア) 知らなかったから イ) 仕事が忙しいから ウ) おもしろくないから エ) 周りの人が参加しないから
オ) 子どもが参加しないから カ) 気が進まないから キ) 参加するのがいやだから
ク) 家族と過ごすから ケ) お金がかかるから コ) 誰からも誘われないから サ) その他

それでは、今後保護者が子どもたちが参加する地域の行事や活動にどのような関わり方をしていきたいか見ていこう。(図 3-1-15,16)によれば、子どもたちが参加する地域の行事や活動に率先して関わりたいと思うかという質問に対して前回の調査から小学生の保護者では、「関わりたいと思う」が68.1%から76.5%で8.4ポイント増加している。中学生の保護者も63.8%から69.5%と5.7ポイント増加している。このことは、保護者の地域の行事や活動に対する理解度の高さが伺える。一方で、「関わりたいと思わない」とする保護者が前回調査から減少している。

保護者 (7) あなたは、今後、子どもたちが参加する地域の行事や活動に率先して関わりたいと思いますか。1つ選んでください。



ア) 思う イ) 思わない

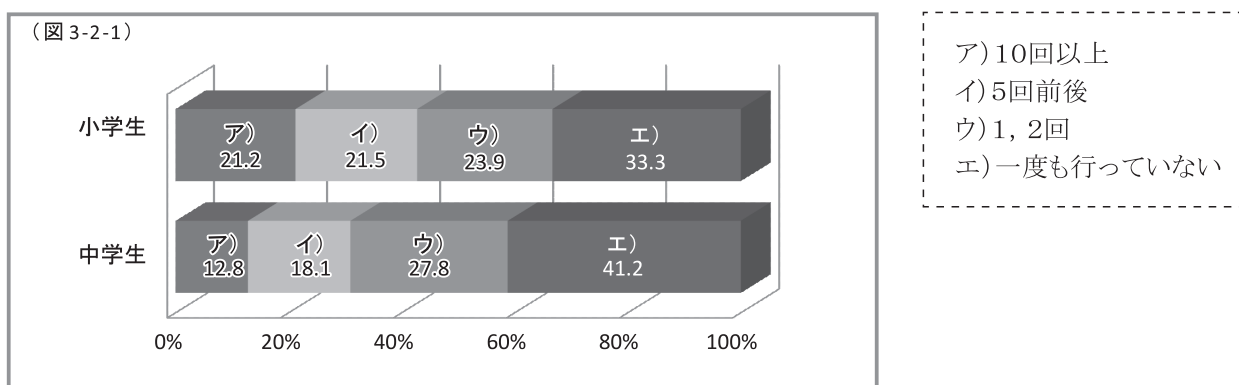
第2節 公民館活動の現状と課題

公民館は「つどい・まなぶ・むすぶ」場であると言われることがある。それは、地域の中で「学習支援」と「地域づくり支援」の機能を果たしていることも通じている。では、地域の教育力の向上を考えたとき、その主な対象者である子どもたちに対し、公民館はどのような役割を果たしているのだろうか。本節では、小中学生やその保護者への調査結果からその現状について考察する。

1 小中学生の公民館とのかかわり方と意識の現状

(図 3-2-1) は、子どもたちが1年間でどのくらい公民館に行くかを表したグラフである。

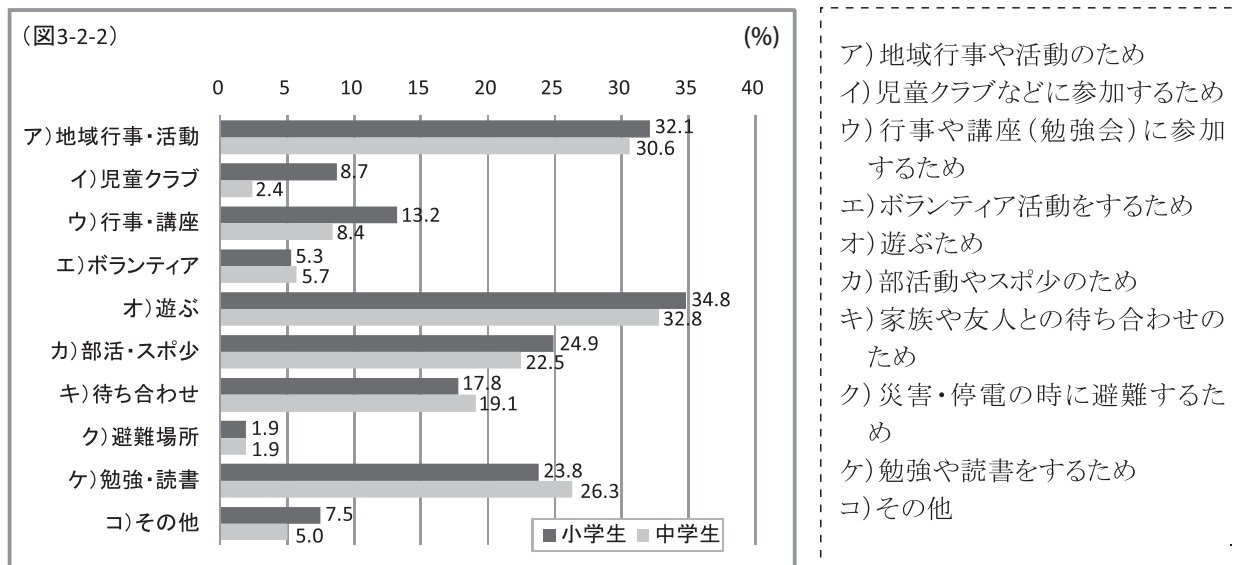
児童・生徒 (7) あなたは、この1年間に公民館に何度くらい行きましたか。次の中から1つ選んでください。



これを見ると、子どもたちが公民館に行く頻度は、中学生よりも小学生の方が高く、小学生で4割強、中学生では3割強が1年間に5回前後以上行っていることが分かる。ただし、公民館には、図書館(図書室)が併設されていたり、児童クラブが開設されていたりする館とそうでない館等があるため、市町村や個々の公民館によって子どもたちが公民館を訪れる頻度に大きな差もみられた。

児童・生徒 (8) 前問(7)で、ア) イ) ウ) と答えた人(公民館に行った人)だけお答えください。

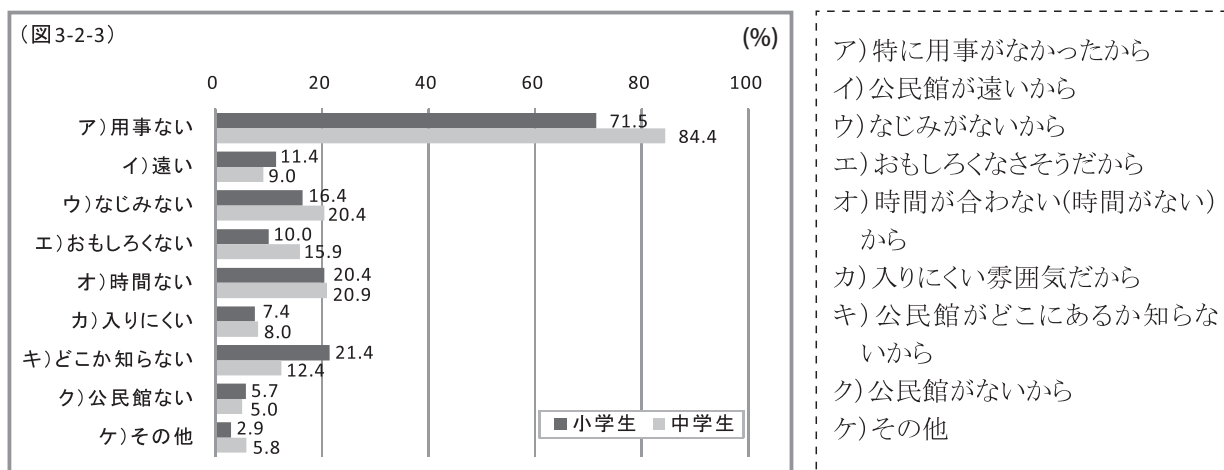
あなたは、どのような用事で公民館に行きましたか。あてはまるものをすべて選んでください。



次に、子どもたちが公民館に行った理由(図 3-2-2)を見ると、小学生・中学生とも「遊ぶため」「地域行事や活動のため」が30%を超え上位となった。また、「勉強・読書」や「行事や講座」「待ち合わせ」等様々な理由が挙げられており、公民館が子どもたちにとっても「つど・まなぶ・むすぶ」場となっていることが分かる。しかし、(図 3-2-1)を視点を変えて見れば、小学生の3割、中学生の4割程度が公民館に一度も来ていないということであり、また、その理由は「特に用事がない」が圧倒的に多い(図 3-2-3)。

児童・生徒(9)前問(7)で、エ)と答えた人(公民館に行っていない人)だけお答えください。

あなたが公民館に行かなかったのはなぜですか。理由をすべて選んでください。



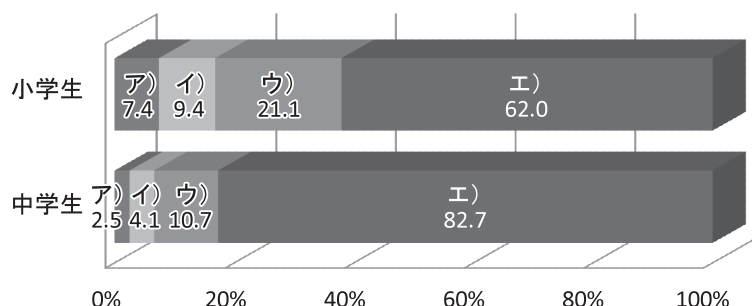
ところで、県内の市町村では、公民館を中心に様々な子どもの体験活動が開催されている。例えば、能代市中央公民館の「ちびっ子公民館」や大館市中央公民館の「わんぱくスクール」等のように毎月様々なプログラムを実施する例、あるいは井川町公民館の「夏まつり」と「わんぱく雪祭り」、横手市浅舞公民館の「夏休み・冬休みわくわく教室」のように長期休みを利用して行われる教室等の例が挙げられた。また、由利本荘市由利公民館のように夏のキャンプ、秋のハイキング、冬のスケート教室といった季節性を重視した教室が行われている例等も見られた。他にも各地の公民館でそれぞれに工夫されたメニューが展開されており、多くの子どもたちがこれに参加し、貴重な体験活動を行っていることがわかる。

では、子どもたちは、これらの体験活動を主とした活動に、どれくらい参加しているのだろうか。(図 3-2-4)を見ると、公民館主催の行事や講座に1、2回以上参加したことがあると答えた子どもは、小学生で4割弱、中学生で2割弱であった。この数字は少ないようにも感じるが、例えば「40人のクラスの中で、8人程度の中学生が行事や講座に参加したことがある」という見方をすれば案外多いとも考えられる。ただ、参加したことがない理由(図 3-2-5)が「行事を知らない」あるいは「行事が行われていない」という回答が多いことは、まだまだ公民館側に改善工夫の余地がありそうである。

児童・生徒(10)あなたは、この1年間に公民館主催の行事や講座(勉強会)に参加したことがありますか。

次の中から1つ選んでください。

(図3-2-4)

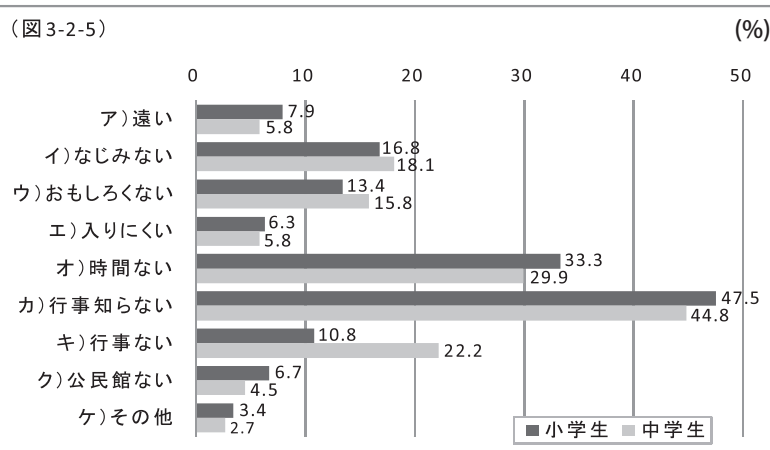


ア) 行事があるときにはほぼ参加している
イ) 参加している
ウ) 1, 2回参加したことがある
エ) 参加したことがない

児童・生徒(11) 前問(10)で、エ)と答えた人(参加したことがない人)だけお答えください。

あなたが参加しなかったのはなぜですか。理由をすべて選んでください。

(図3-2-5)



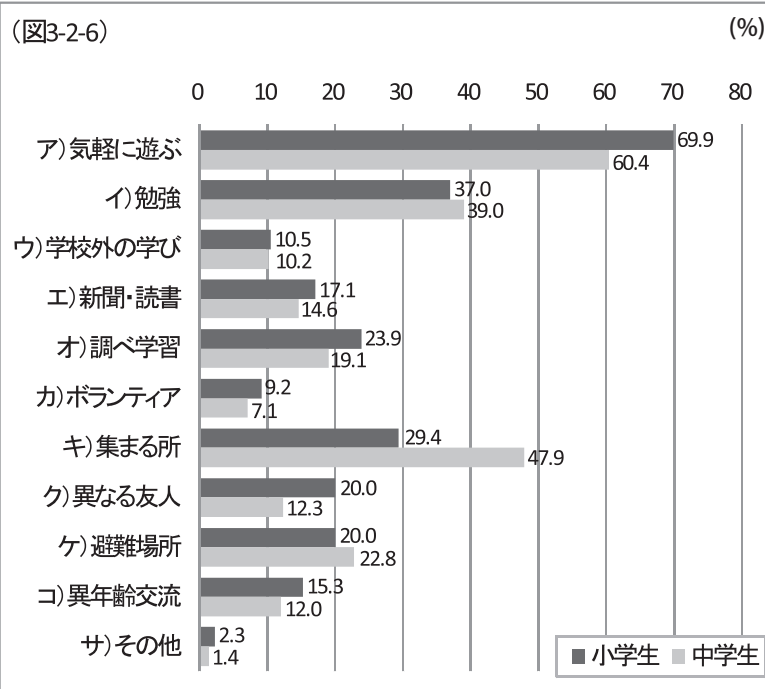
ア) 会場が遠いから
イ) なじみがないから
ウ) おもしろくないから
エ) 入りにくい雰囲気だから
オ) 時間が合わない(時間がない)から
カ) どのような行事をやっているかわからないから
キ) 行事が行われていないから
ク) 公民館がないから
ケ) その他

実際に、公民館へのアンケートでは、子どもを対象とした地域活動や行事を「特に企画実施していない」との回答が35%に上った。公民館によって、放課後子ども教室を実施している館や独自に複数の具体事例を挙げる公民館もあれば、何も実施していない公民館があるのも現状である。このことは、子どもたちの体験活動の機会に格差が生じているとも言える。

ところで、「公民館がどのようなところだったらいいと思いますか」(図 3-2-6)という質問に対しては、小学生・中学生で若干の違いはあるが、最も多い回答が「気軽に遊べる場所」で、次いで「ゆっくり勉強できる場所」、「みんなが何となく集まれる場所」という回答が多かった。また、「どのような行事や講座(勉強会)があればいいと思いますか」(図 3-2-7)という問いに対しては、「科学やものづくり教室」「スポーツやレクリエーション」「料理教室」「祭りや伝承教室」「昔の遊び(小学生)」の回答が2割を超えた。また、他にもその希望は多岐にわたっていた。子どもたちが公民館に求めているものや行事、講座に対する希望が明らかになったことは今後の取組を考える上でヒントになると言えよう。

児童・生徒 (12) あなたは、公民館がどのようなところだったらいいと思いますか。3つまで選んでください。

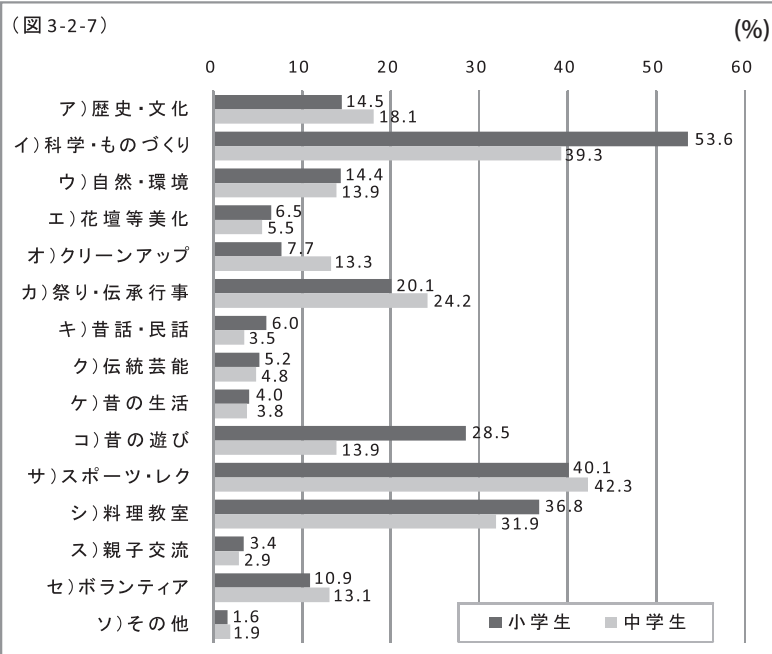
(図3-2-6)



ア) 友だちと気軽に遊べるところ
 イ) ゆっくり勉強ができるところ
 ウ) 学校以外の行事や講座(勉強会)で学べるところ
 エ) 新聞を読んだり読書したりできるところ
 オ) 宿題や調べ学習の手助けをしてくれるところ
 カ) ボランティア活動をしたり手伝ったりしてくれるところ
 キ) みんなが何となく集まれるところ
 ク) 学校とはちがう友だちをつくる
 ところ
 ケ) 安全に避難するところ
 コ) 大人・お年寄りや小さい子どもと交流するところ
 サ) その他

児童・生徒 (13) あなたは、公民館でどのような行事や講座(勉強会)があればいいと思いますか。3つまで選んでください。

(図3-2-7)



ア) ふるさとの歴史や文化を調べる
 見学や活動
 イ) 科学教室・ものづくり教室
 ウ) ふるさとの自然や環境について
 学ぶ
 エ) 花壇づくりなどの美化活動
 オ) クリーンアップ活動
 カ) 祭りや古くから伝わる行事
 キ) 昔話・民話などを聞く会
 ク) 古くから伝わる芸能などの練習
 ケ) 昔の生活を知る会
 コ) 昔の遊びを体験する会
 サ) スポーツレクリエーション
 シ) 料理教室
 ス) 親子座談会・親と子のつどい
 セ) ボランティア活動
 ソ) その他

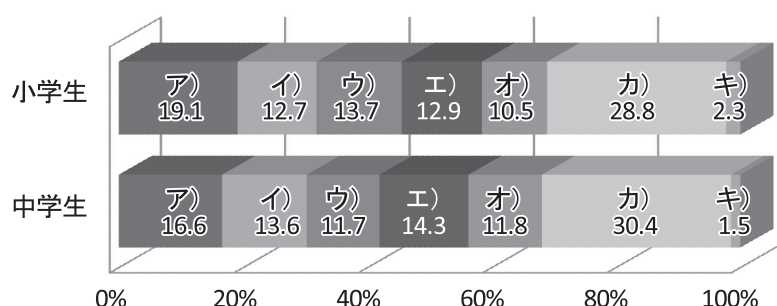
2 小学生・中学生保護者の公民館との関わり方と意識の現状

一方、保護者の公民館に対する意識はどうであろうか。今回の調査では、児童生徒の保護者に対する意識調査を行った。30代・40代の子どもの母親が主な回答者であるが、その傾向について考察する。

はじめに地域活動や行事の推進役となる組織についての質問（図 3-2-8）には、「市町村の町づくり担当部署」との回答が最も多く3割ほど、次いで町内会が2割程度、次に「NPOや民間」「公民館」「教育委員会」「学校」がそれぞれ1割程度という結果が出た。ただしこの結果は、市町村の実情によってかなりのばらつきが見られた。

保護者 (10) あなたは、これからの地域活動や行事の推進役をどのような組織が行えばより効果的だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

（図3-2-8）



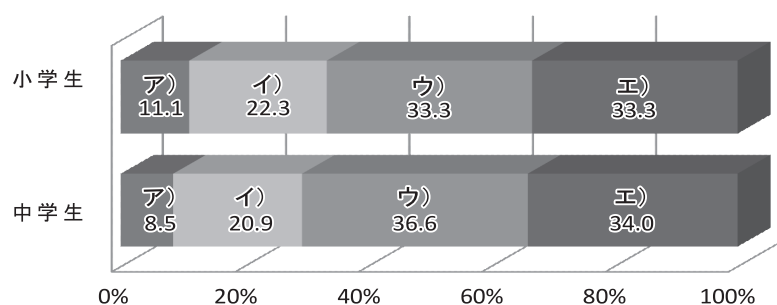
ア) 町内会
イ) NPOや民間団体
ウ) 公民館
エ) 教育委員会
オ) 学校
カ) 市町村のまちづくりなどを担当する部署
キ) その他

次に保護者が公民館に行く頻度（図 3-2-9）を見ると、児童生徒と概ね同じ傾向が見られた。1年間に5回前後以上が3割、「一度も行かない」も3割程度であった。その目的は「送迎」が最も多く、次いで「所属団体での活動」「研修会や行事への参加」が続いた（図 3-2-10）。

また、行かなかった理由では「用事がないから」が8割を占めている（図 3-2-11）。さらに、公民館事業への参加の割合（図 3-2-12）を見ると「よく参加している」「参加している」を合わせても5%程度である。そして「参加したことがない」はおおよそ75%であり、その理由は「時間がない」と、「行事を知らないから」が大部分を占めた（図 3-2-13）。

保護者 (11) あなたは、この1年間に公民館に何度くらい行きましたか。1つ選んでください。

（図 3-2-9）

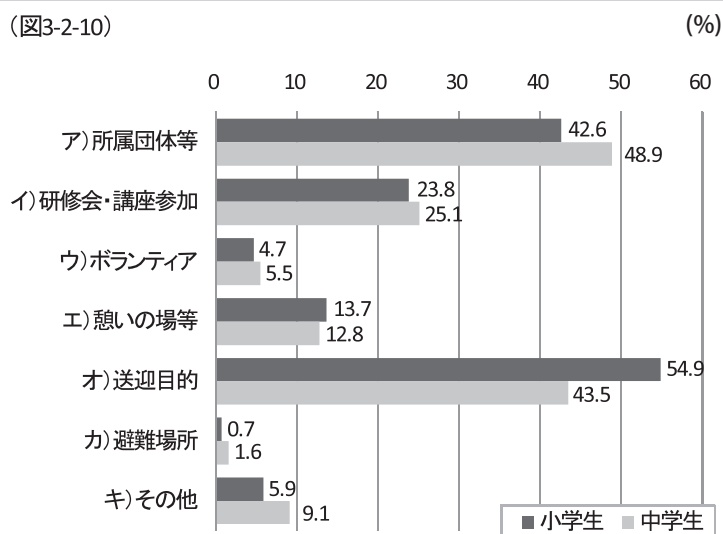


ア) 10回以上
イ) 5回前後
ウ) 1, 2回
エ) 一度も行っていない

保護者 (12) 前問(11)で、ア) イ) ウ)と答えた方のみお答えください。

あなたは、どのような用事で公民館に行きましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

(図3-2-10)

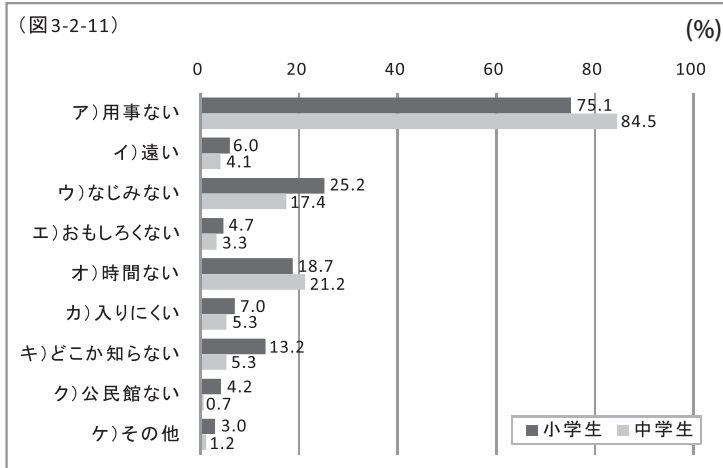


ア) 自分が所属しているグループや団体の自主的な活動の目的で
 イ) 公民館や行政機関、他団体等が主催する研修会や講座等への参加の目的で
 ウ) 公民館ボランティアや講座のスタッフ等のボランティア・支援の目的で
 エ) 憩いの場として、または知り合い等に出会う目的で
 オ) 子どもや家族の付き添いや送迎の目的で
 カ) 災害時の避難場所として
 キ) その他

保護者 (13) 前問(11)で、エ)と答えた方のみお答えください。

あなたが公民館に行かなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべて選んでください。

(図3-2-11)

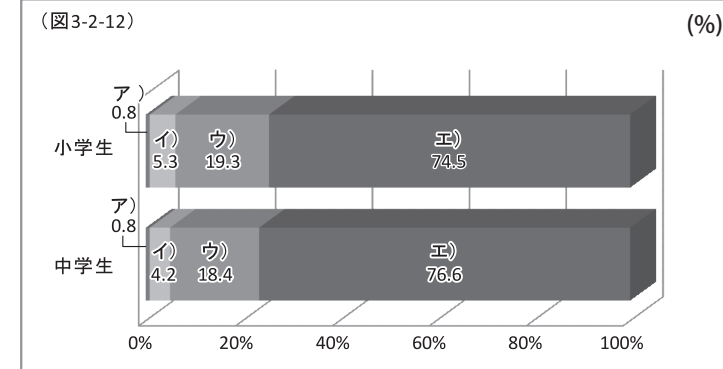


ア) 特に用事がなかったから
 イ) 公民館が遠いから
 ウ) なじみがないから
 エ) おもしろくないから
 オ) 時間が合わない(時間がない)から
 カ) 入りにくい雰囲気だから
 キ) 公民館がどこにあるか知らないから
 ク) 公民館がないから
 ケ) その他

保護者 (14) あなたは、この1年間に公民館主催の事業や講座に参加したことがありますか。

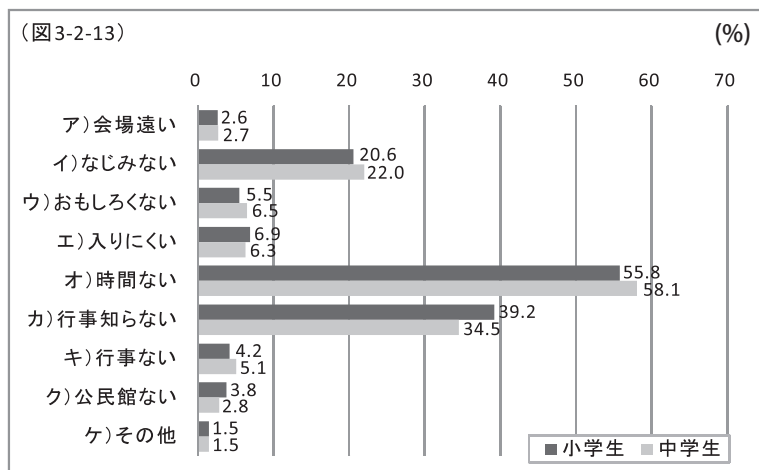
次の中から1つ選んでください。

(図3-2-12)



ア) よく参加している
 イ) 参加している
 ウ) 1, 2回参加したことがある
 エ) 参加したことがない

保護者 (15) 前問(14)で、エ)と答えた人(参加したことがない人)だけお答えください。
あなたが参加しなかったのはなぜですか。理由をすべて選んでください。

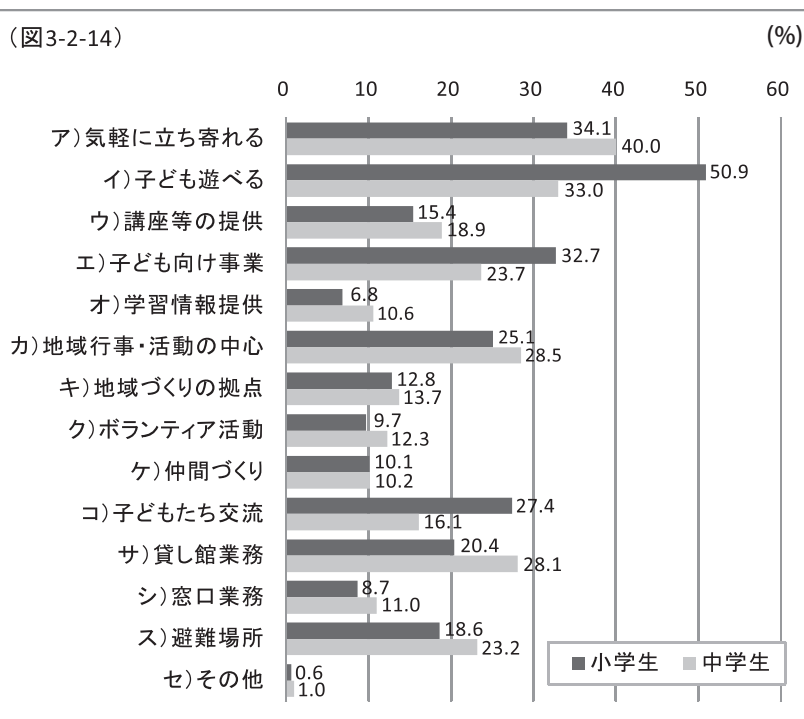


ア)会場が遠いから
イ)なじみがないから
ウ)おもしろくないから
エ)入りにくい雰囲気だから
オ)時間が合わない(時間がな
い)から
カ)どのような行事をやっている
か知らないから
キ)行事が行われていないから
ク)公民館がないから
ケ)その他

これらのことから、子どもをもつ親の世代には、公民館はあまり身近でない現状が見てとれる。こうした傾向に対して教育委員会のコメントの中には、親子で気軽に参加できる事業の開催など30～40代を対象にした事業の必要性を記しているものもあり、そのような取組にも今後期待したい。

次に、今後地域の公民館にどのような役割を期待するか(図 3-2-14)という問いに対しては、「子どもが気軽に遊べる場」「気軽に集まれる場」との回答が多い。また、「地域行事・活動の中心」としての期待も見られる。子どもの保護者としての立場と学習者である住民としての立場が見えるが、どちらかといえば前者としての要望が強いように感じられる。

保護者 (16) あなたは、今後、地域の公民館にはどのような役割を強化して欲しいと考えていますか。
3つまで選んでください。(公民館のない地域の方も要望をお書きください。)



ア)気軽に立ち寄れる場
イ)子どもたちが気軽に遊べる場
ウ)社会人や高齢者向けの学習
講座等の提供
エ)子ども向けの事業や講座の実
施
オ)学習情報の提供
カ)地域行事・活動の中心
キ)地域づくりの拠点
ク)ボランティア活動の実施や情
報提供
ケ)仲間づくりの場
コ)子どもたちの交流の場
サ)集会・会議・サークルなどへの
貸し館業務
シ)市民サービスの窓口業務
ス)災害時の避難場所
セ)その他

こうした声に対して市町村の教育委員会や公民館からは「忙しく時間がない中でも興味をもって気軽に参加できる講座を企画したい」、「児童生徒はもちろん保護者にとっても魅力ある公民館であるように地域の情報を発信していきたい」といったコメントが出されている。地域づくりの拠点として、あるいは、子どもたちに対する地域の教育力を発揮する場として、公民館の役割を考える上での参考にしたい。

第3節 地域の教育力強化に向けた公民館活動の現状と課題

1 社会教育調査(文部科学省実施)から見える公民館の利用状況

地域の教育力強化に向けた本県公民館活動の現状と課題を述べる前に、「社会教育調査」(平成20年度)データから本県公民館の利用状況等を全国との比較の中で見てみたい。

全国の公民館(類似施設を含む)数は平成11年度をピークに減り続けており、平成11年度との比較で見た時、本県の増減率は約-25%と全国42位となり、公民館数の減少は明らかである。また、公民館運営審議会の設置を見た時、平成11年より任意必置となったものの、その設置率は約40%と全国40位にとどまっている。さらに、公民館1館当たりの利用者数は全国42位、公民館1館当たりの学級・講座数は全国39位と低くなっている。

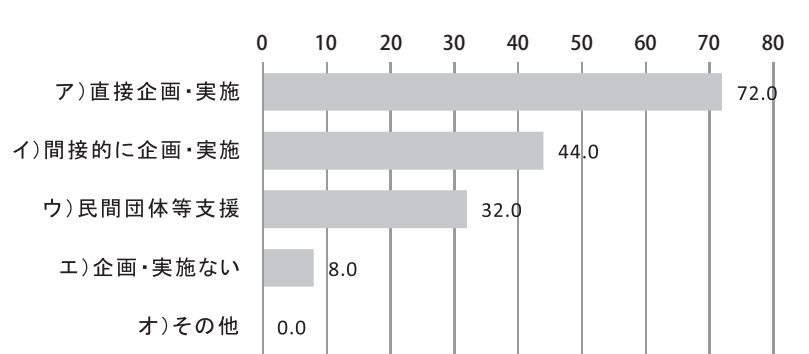
以上のことから、県民にとって公民館はやや遠い施設になりつつあることが分かる。

2 県内市町村における子どもを対象とした事業の取組状況

今回の調査結果(図 3-3-1)より、子どもを対象とした地域活動・行事の取組状況を見てみることにする。調査では2町を除いた23市町村で子どもを対象とした地域活動・行事を実施しており、地域の教育力を活用した特色ある事業が展開されている。しかしこの2町においても放課後子ども教室を実施していることから、県内全市町村においてその市町村事情に即した事業を実施していることが分かった。

教育委員会 (1) 貴委員会では子どもを対象とした地域活動や行事を企画・実施していますか。
当てはまるものをすべて選んでください。

(図3-3-1)

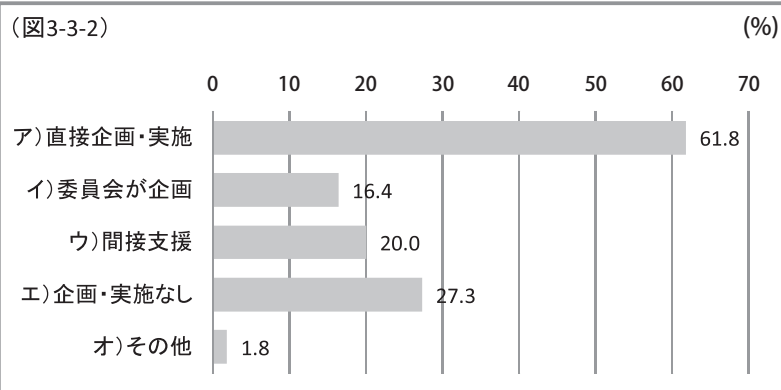


ア) 直接企画・実施している
イ) 公民館や社会教育施設を通じて間接的に企画・実施している
ウ) 民間団体や町内会等を通じた間接的に実施している
エ) 特に企画・実施していない
オ) その他

しかし、(図 3-3-2)から読み取れるように、約1/3の公民館では子どもを対象とした地域活動・行事は実施されていない。地域活動・行事が実施されていない公民館管内小学校においては、「放課後子ども教室」を実施している、「事業予算がない」等それぞれの事情はあるものの、地域で子どもを育てていく方向性と知の循環型社会構築に向けた地域住民の生涯学習成果の活用の中という視点から見た時、課題があると言わざるを得ない。

公民館等(1) 貴施設では子どもを対象とした地域活動や行事を企画・実施していますか。
当てはまるものすべてを選んでください。

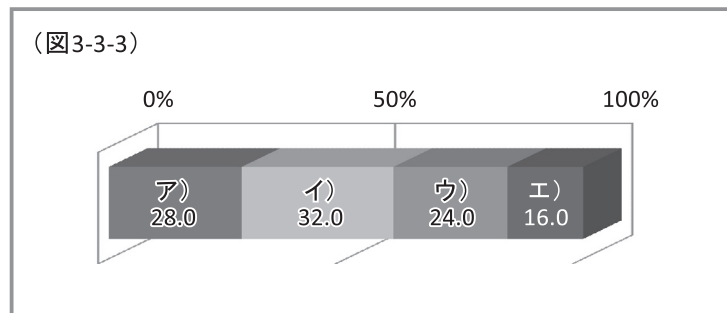
(図3-3-2)



ア) 直接企画・実施している
イ) 教育委員会が企画した事業を実施している
ウ) 民間団体や町内会等を通じた間接的に実施している
エ) 特に企画・実施していない
オ) その他

教育委員会(3) 貴委員会では、今後子どもを対象とした地域活動や行事について主としてどのように取り組もうと考えていますか。一つだけ選んでください。

(図3-3-3)



ア) 直接企画・実施するものに重点を置きたい
イ) 公民館や社会教育施設での企画・実施に重点を置きたい
ウ) 民間団体や町内会等を通じた間接的な支援に重点を置きたい
エ) その他

また、(図 3-3-1,2)から分かるように、子どもを対象とした事業を教育委員会では約72%、公民館では約62%が直接企画・実施している。今後の取組の方向性(図 3-3-3)について教育委員会では、直接企画・実施から公民館や社会教育施設での実施、民間団体や町内会等を通じた間接的な支援へとシフトしたいと回答している。

3 公民館機能強化に向けた取組

地域の教育力強化に向けた公民館活動の取組を見てみたい。(図 3-3-4,5)から読み取れるように、教育委員会の約4/5、公民館の約3/5では公民館活動強化に向けた取組はできていない、と回答している。しかし自由記述によると、地域の教育力の強化に向けた公民館機能強化に向けて、次のような取組が報告されている。

大館市では、社会教育中期計画において、地域コミュニティづくりの拠点として、公民館活動を推進することを目標としている。各公民館での活動を支援するため、「人財名簿」の作成等、人材情報の提供に努めている。

北秋田市では、「おらほの学校応援し隊！」により公民館がコーディネーターとなり、市全体で学校支援に取り組んでいる。

美郷町では、ブログ「すきです美郷ー美郷町生涯学習情報ー」を作成して、生涯学習情報を住民に向けて広く発信している。

仙北市では、公民館機能強化に向けて、中央公民館設置構想を計画している。中央公民館の役割として、地区公民館との円滑な連絡調整や社会教育・生涯学習に関わる情報提供などの事業支援、また、公民館事業の評価と改善や指導的役割を担っていくことを考えている。加えて、社会教育推進の中心となる生涯学習機会の提供や学習相談の実施、地区公民館では実施できない市民講座の開催等も計画している。

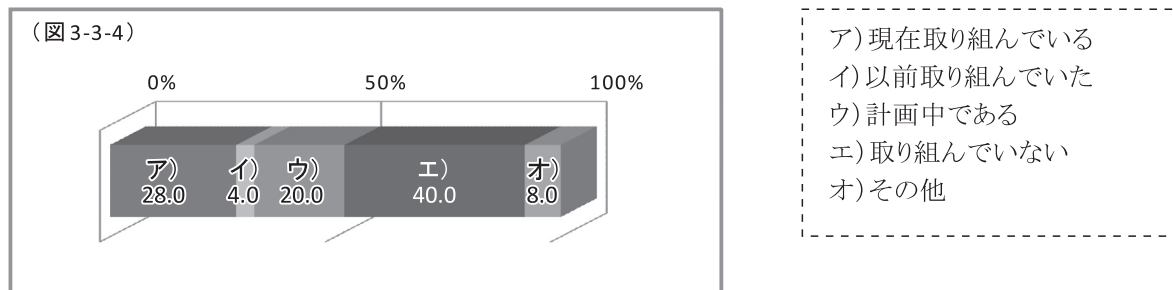
大館市田代公民館では、管内にある10分館の分館長・分館主事から構成された「分館長・分館主事連絡協議会」を結成し、情報の共有や行事・開催講座等の情報共有等を図ることで、地域の公民館・分館が一体となった公民館運営に取り組んでいる。

潟上市昭和公民館では、「ワンコイン講座」を実施している。公民館では予算がないと事業が実施できないが、「ワンコイン講座」として、市民・グループが一人一回500円の経費で10人以上の人数を確保することで、公民館が支援しながら講座を実施している。

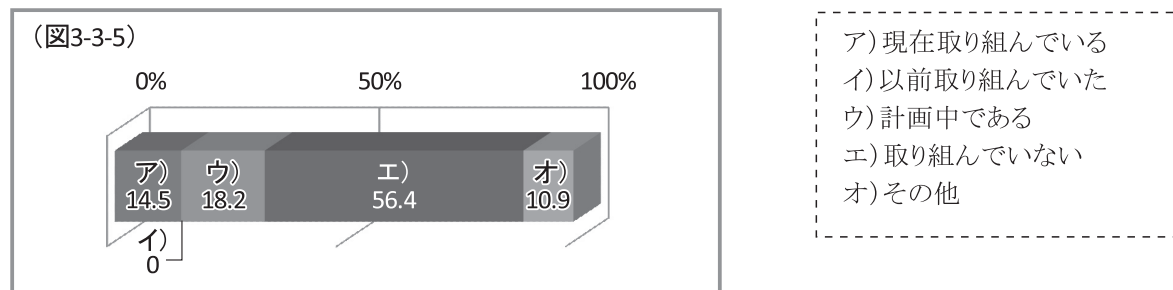
大仙市花館公民館では、「支所業務の廃止、団体の自主運営化の促進、出先業務の本庁担当課への移管」を進めている。以上のような具体的取組の他にも、「チョコ・ボラ」「地域ボランティアの養成・活用」などという回答があった。

本報告書の前節で述べているとおり、公民館利用者の約半数が「送迎目的」で使用し、約1割が「憩いの場や知り合いに会う目的」で公民館を利用したことが調査結果として出ている。このことから公民館利用者の拡大のみならず、公民館機能の強化に向けて、公民館における講座参加者やサークル利用者以外を取り込んでいく取組が必要不可欠と思われる。

教育委員会 (11) 貴委員会では、公民館機能強化のための取組をしていますか。



公民館等 (7) 貴施設は公民館機能強化のための取組をしていますか。

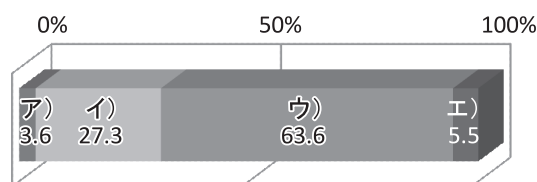


公民館利用者の拡大と公民館機能の強化に向けては、公民館活動の広報も重要な方策の一つと考えられる。公民館の実施している広報活動の現状について「社会教育調査」(平成20年度)によれば、公民館広報活動実施率は約65%(全国46位)、公民館HP保有率は約4%(全国34位)、公民館機関誌作成率は約33%(全国42位)といずれも低くなっている。

今回の調査によると、公民館利用者以外へのサービスとして、前述した美郷町のブログのような「公民館だよりの発行」「学習活動等の情報提供」「移動公民館の実施」等の取組をおこなっている公民館はあるものの、(図 3-3-6)から分かるように、約2/3の公民館では公民館利用者以外に対しての取組(サービス)は実施されていない。

公民館等 (10) 当センターが昨年度行った調査研究によると、「公民館は、利用者以外へのサービスという点にも目を向け、『公民館がなくなると困る』と地区住民全員から思われる存在」になる必要があるという提言がありましたが、貴館では利用者以外へのサービスに取り組んでいますか。一つだけ選んでください。

(図3-3-6)

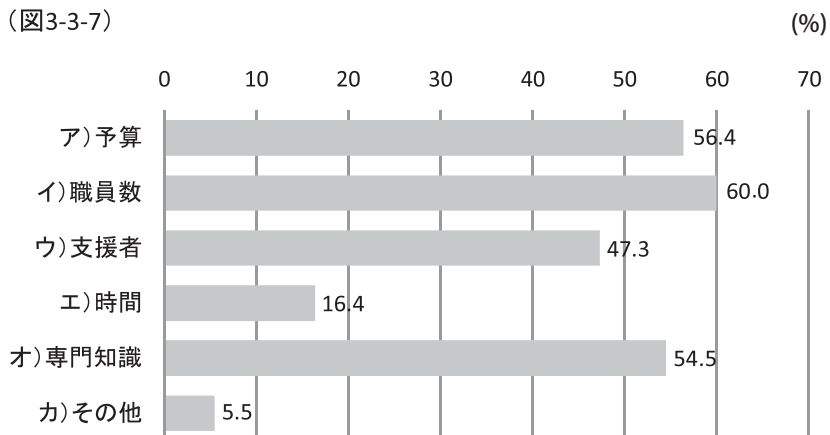


ア) 積極的に取り組んでいる
イ) 取り組んでいる
ウ) 取り組んでいない
エ) その他

また、地域の教育力強化に向けた公民館機能強化について見てみると、図 3-3-7 に示されているように、半数以上の公民館が「予算」「職員数」「専門知識」が事業を実施していく上で足りないと思うと回答している。

公民館等 (12) 貴施設で事業をおこなっていく際に足りないと思うものは何ですか。いくつでもお選びください。

(図3-3-7)



ア) 予算
イ) 職員数
ウ) ボランティア等支援者
エ) 時間
オ) 専門知識
カ) その他